

福祉の

ひかり

光が丘地区社会福祉協議会



第100号
 発行 光が丘地区社会福祉協議会
 事務局 相模原市中央区並木 4-7-9
 光が丘公民館内
 電話 042-707-1332
 メール hikarigaokatiku@sagamihara-shishakyo.or.jp
 編集 広報委員会

光が丘地区社会福祉協議会の広報紙「福祉のひかり」が100号に

広報紙「福祉のひかり」は昭和62年の発行から、今号で100号になりました。「福祉のひかり」は、地域の皆様に光が丘地区社会福祉協議会の福祉活動を認知、理解していただくこと、更には福祉活動をしていただけるよう発行してまいりました。当初はモノクロ印刷で年2回発行でしたが、少しでも早く、見ていただける紙面となるように発行回数を増やしたり、紙面のカラー化を行ってきました。(以下に創刊号からのその経緯を紹介) また、この広報紙の発行に対し多くの皆様のご協力(記事の収集、取材協力、編集、発行作業、配布など)がありました。心から感謝申し上げます。



創刊号 B5版 4面



第2号



第10号



第17号~ B5版⇒A4版 4面



第30号特別号 8面



第40号

第39号~ 年2回モノクロ全戸配布
 ⇒年1回モノクロ4面 全戸配布
 年3回カラー2面 自治会回覧



第47号 自治会回覧 カラー



第76号 最後のモノクロ



第43号~ 44号 4面版もカラーへ



第77号~ 78号 2面版も全戸配布



第98号 4面



第99号 2面

広報紙「福祉のひかり」100号まで

赤字は「福祉のひかり」関連

◆ 光が丘地区社協の現在まで続いている行事

西暦	年	月	できごと
1984	S	4	光が丘地区社会福祉協議会発足
		10	◆共同募金運動の実施
86	61	11	◆一人暮らしのお年寄りの集い
87	62	2	福祉のひかり創刊号発行
89	H1	1	第4号発行~年2回発行に
92	4	10	◆第1回ふれあい交流会(街並み点検)
93	5	5	◆福祉協力員研修制度発足
95	7	9	第17号~ B5⇒A4
97	9	3	第20号発行
2000	12	11	◆ダイヤモンド婚お祝い
01	13	4	◆ふれあいいきいきサロン推進
02	14	3	第30号特別号発行
03	17	3	光が丘地区社会福祉協議会20周年記念式典
04	18	4	第39号~年2回全戸配布 一年1回全戸配布モノクロ4面 年3回自治会回覧カラー2面
08	20	6/7	◆にぎわい処・光が丘サポート隊発足
11	23	3	東日本大震災
14	26	1	光が丘ふれあいセンター開所
15	27	2	光が丘地区社会福祉協議会30周年記念式典
		6	第80号~ 4面版もモノクロ⇒カラー
16	28	12	第82号~12月発行も4面全戸配布に
18	30	4	第87号~ 年2回全戸配布2回回覧⇒4回とも全戸配布
2021	R2	~3	新型コロナウイルス感染症の大流行行事の多くが中止になる 広報紙も2回発行中止
21	3	12	第100号発行

現在の発行は

A4 4ページ カラー 年2回全戸配布
 A4 2ページ カラー 年2回全戸配布

昨年同様新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募金の呼び掛けはOD再生で、募金箱は据え置きして寄付金の手渡しはしない。赤い羽根シール、ドラえもんバッジはトレイに入れて寄付者にとってもらう。

御礼の言葉はうちわに書いて掲げる等飛沫感染防止策をとって、寄付者やボランティアが密接・密



4店舗の軒先をお借りして街頭募金

10月3日(日)ヤオコー、グルメシティ、コープ、三和の4店舗の協力を得て、5団体86名が11時～14時まで、交替で店頭に立ち募金活動を行いました。

赤い羽根 街頭募金

「買物後のおつりを1年間貯めたもの」と言われて紙袋を渡された。貴重な善意に感謝感激。親子で買物に来た方が、子どもにお金を渡して募金させた。微笑ましく良いなと感じた。おばあちゃんとお孫さん、財布を取りに一旦戻って寄付をしてくれた。ヤオコーでは子どもさんの寄付が多く、ドラえもんバッジが不足した。

4店舗の店長さんに快く募金会場を引き受けていただき、更に「どんなことでも協力します」と温かいお言葉をいただきました。各会場のボランティアの皆さんは穏やかに、にこやかな笑

街頭募金に参加した方からの一言から

- ・コロナ禍で声を出して募金の呼びかけが出来ない歯がゆさがあった。
- ・コロナ禍でなくても今回の募金活動の形態は寄付者とボランティア双方にとても良い感覚。今後も継続すべきだと思います。
- ・「買物後のおつりを1年間貯めたもの」と言われて紙袋を渡された。貴重な善意に感謝感激。親子で買物に来た方が、子どもにお金を渡して募金させた。微笑ましく良いなと感じた。
- ・おばあちゃんとお孫さん、財布を取りに一旦戻って寄付をしてくれた。ヤオコーでは子どもさんの寄付が多く、ドラえもんバッジが不足した。
- ・4店舗の店長さんに快く募金会場を引き受けていただき、更に「どんなことでも協力します」と温かいお言葉をいただきました。各会場のボランティアの皆さんは穏やかに、にこやかな笑

しないよう距離をとっての活動となりました。

募金合計 89,541円。
(相模原市パークゴルフ協会の募金も含む)

募金をされた皆様、ありがとうございました

ダイヤモンド婚 (光が丘地区)

年	組	年	組
令和3年	36	平成27年	6
2年	33	26年	8
元年	28	25年	8
平成30年	15	24年	8
29年	15	23年	8
28年	8	22年	10

11月17・18日、光が丘地区社協は、光が丘地区でダイヤモンド婚(結婚60年)を迎えられたご夫婦のお祝いをしました。

ご自宅を地区社協と民児協の会長、担当地区の民生委員が訪問し、記念品と花束を贈呈、続いてお二人の記念撮影を行いました。

光が丘地区社協では「ダイヤモンド婚のお祝い」を平成12年から行っています。左記は最近12年のダイヤモンド婚の組数です。

ダイヤモンド婚の36組にお祝い

☆その他、募金の運営等のご意見がありました。来年からの募金活動に生かしていきます。

顔で対応していました

新原：光が丘は子ども向けの活動が増えてきているので取材していきたい。ただ子ども分野の福祉活動は活動の表現が難しい場合もあるので、担い手の方とも相談しながらの取材が大事なな。

山田：地域を支える民生委員の特別な役割を伝えてみたい



高橋：撮影をしていると子どもたちもノリノリでポーズしてくれたりするので楽しいです。今の時代は顔が映らないよう配慮が必要なので、そういうところには気を付けています。

新原：大変だったのは記念誌の製作！地区社協創立30周年の記念誌を作りましたが、資料も予算も期間もなく大変でした。

他には、福祉を扱う広報紙ならではのかもしれないけど、時代によって表現が変わってくるので社会の動向を見ながらの記事作りが大事だと思います。「障害」から「障がい」、「痴呆症」から「認知症」というように時代によって変わってきてますよね。

山田：これからやってみよう

新原：光が丘は子ども向けの活動が増えてきているので取材していきたい。ただ子ども分野の福祉活動は活動の表現が難しい場合もあるので、担い手の方とも相談しながらの取材が大事なな。

山田：地域を支える民生委員の特別な役割を伝えてみたい

本年度、花のまちづくりの花壇コンテストで銀賞を受賞しました

☆ペタンク練習
火・木曜公園清掃の終了後



- ☆花植え付け、春秋 (スマイルクラブ)
- ☆花壇の手入れ 火・木曜週2回
- ☆並木二丁目とん汁の会
- ☆並木二丁目敬老祭
- ☆ひばり公園の清掃と除草 火・木曜の週2回 (スマイルクラブ)

自治会内の部活 並木二丁目自治会

主な活動

並木二丁目自治会

☆最後にひとこと

新原：広報委員を増やしたい！興味ある人ご連絡ください。PCがなくても大丈夫だから！

☆広報委員として一緒に「福祉のひかり」に携わってくださる方を大募集しております！お気軽にお問い合わせください。

連絡先：
光が丘地区社会福祉協議会事務局 (光が丘公民館内) 電話：042770711332

広報委員を大募集中！

地区社協広報紙 100号記念企画

広報委員に聞いてみた！



左から、
広報歴 約9年 山田 盛二 委員長
広報歴 約18年 新原 主計 委員長
広報歴 約10年 高橋 一男 委員

地区社協広報紙を支える広報委員は、地区内の地域福祉活動を住民の方々に分かりやすく伝える、縁の下の力持ちです！今回は普段裏方に回るこの多い広報委員の3人に、地区社協事務局がインタビューしました。

100号に思うこと

光が丘地区社協会長 飯沼守



広報紙「福祉のひかり」が100号をむかえました。地域の福祉情報を住民の皆さんに届けることで生活の中での不安なことの解消に役立つ広報紙として愛されて来ています。

継続には地域の自治会・民児協・公民館・老人会・福祉団体などにご協力を頂き感謝申し上げます。

広報委員会の皆さんの、住民に寄り添う情報をこれからも発信します。応援してください。

Q. 広報委員会に入ったキッカケは？

新原：民生委員をやっていた時に、当時の広報委員長から「PCで



山田：文章を書くのはいまだに苦手です。でも、取材で色々な人とお話するのは好きです。先日も陽光台のごちも食堂へ取材に行きました。朝早くからたくさんの方が調理し、学生さんも手伝っていて「人のためにこんなにかんばっている人がいるんだ！」と感心しました。

Q. 楽しかったこと・大変だったことは？

山田：私は公民館報の手伝いもしていたので公民館にはよく来ていました。そのなかで新原さんから声を掛けていただきました。高橋：元々カメラが好きだったので公民館報の撮影を手伝って、その流れで地区社協の広報にも関わることができました。



高橋：撮影をしていると子どもたちがノリノリでポーズしてくれたりするので楽しいです。今の時代は顔が映らないよう配慮が必要なので、そういうところには気を付けています。

Q. これからやってみよう

企画部

集をやりたい。民生委員のやりがいや、楽しさを伝えたいです。

Q. 200号に向けては？

新原：これから高齢になっても仕事を続ける人が増え、担い手が少なくなってくると思うので、その辺りは心配かな。手伝ってくれそうな方には声を掛けていきたいです。

山田：人と関わるのが好きなので、できる限りはやりたいと思います。新原委員長が辞めるまでお付き合いしますよ！

高橋：コロナ禍が明けたらみんなで、一杯🍷行けるのを楽しみに頑張ります！